

東北学院大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

数理・DS・AIリテラシープログラム

2025年度自己点検・評価結果報告

東北学院大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門委員会

自己点検・評価の視点		点検・評価項目	取組と評価	自己評価
学内からの視点				
1	プログラムの履修・修得状況	どれほどの学生がプログラム該当科目を履修・習得しているか ＜指標＞ プログラム該当科目の履修者数、修得者数	2025年度履修者数は、2024年度履修者数1,054名より99名減少（減少率9.4％）の955名（修得者数1,391名）となり、目標履修者数2,124名に対して、目標達成率は44.9％に留まった。 一方、2025年度修得者数は、2024年度修得者数923名より468名増加（増加率50.7％）の1,391名となり、過去最大となった。 リテラシーレベルにおいては、当該年度に対象科目のすべてを履修した学生を「履修者」として集計し、当該年度をもってプログラムの修了要件を満たした学生を「修得者」として集計している。プログラムの運用を開始してから5年が経過し、在学生に対する認知度の向上が修得者数の増加に寄与したと考えられるものの、履修者数の減少については、認定科目の配当年次が1年次であることを鑑みれば、新入生に対する広報・周知活動に課題があることを示す結果であると考えられる。	C
2	学修成果	履修学生がプログラム各要素の知識を身につけているか ＜指標＞ 該当科目の「授業改善のための学生アンケート」の学修成果を問う設問の結果	「授業改善のための学生アンケート」における設問6-1（あなたは、この授業によって得られた成果がありましたか。）については、「大いにあった」「ある程度あった」の回答が「AI社会の基礎」では合わせて93.0％（前年度比1.8ポイント減、以下同じ）、「統計的思考の基礎」では合わせて97.0％（0.1ポイント増）を占め、おおそ前年度と同程度の学生が学修成果を実感している。 同様に、設問6-2（その成果は次のうちどれにあたりますか。）（複数回答）については、「知識の獲得・理解」「技術・技能の習得」の回答が「AI社会の基礎」ではそれぞれ84.5％（5.6ポイント減）、37.6％（9.4ポイント減）、「統計的思考の基礎」では86.6％（2.0ポイント減）、32.9％（5.0ポイント減）となっている。 「技術・技能の習得」に関しては30％台に留まり課題は残るものの、「知識の獲得・理解」においては比較的高い水準を維持しており、履修学生がプログラム各要素の知識を身につけていると評価できる。	A
3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	プログラム該当科目が学生が理解しやすい内容となっているか ＜指標＞ 該当科目の「授業改善のための学生アンケート」の理解度を問う設問の結果	「授業改善のための学生アンケート」における設問5（あなたは、この授業の内容を理解できましたか。）について、「AI社会の基礎」では「よく理解できた」「ある程度理解できた」が合計で95.4％（前年度比0.7ポイント減、以下同じ）を、「統計的思考の基礎」では97.6％（1.4ポイント増）を占めており、大半の学生が授業内容を理解できたと実感できている。 このことから、プログラム該当科目が学生が理解しやすい内容となっており、目標を達成できたと評価できる。	A
4	学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	プログラム修了が学生にとって他の学生に推奨できるものとなっているか ＜指標＞ 該当科目の「授業改善のための学生アンケート」の満足度を問う設問の結果	「授業改善のための学生アンケート」における設問1（この授業を総合評価してください。）について、「たいへん良い授業だった」「どちらかといえば良い授業だった」の合計は「AI社会の基礎」で89.9％（前年度比1.2ポイント減、以下同じ）、「統計的思考の基礎」で97.1％（4.0ポイント増）であり、満足度の高い授業となっていることが確認できた。このことから、他の学生への推奨度についても一定程度の評価が可能であると判断した。 ただし、外部評価における指摘事項にあったように、今後も継続的に本プログラムの改善を図るためには、他の学生への推奨度を直接的に測ることのできる指標を設定することが望ましい。	A
5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	プログラム履修者数、履修率向上に向けた取り組みが図られているか ＜指標＞ 履修者増加を図る取り組みの状況	2025年度の取組としては、前年度から引き続き本学webサイトを用いて学生への周知を図ったほか、認定科目の授業冒頭で本プログラムの紹介を行うなどの取組を実施した。 なお、2026年3月13日に開催された専門委員会（2025年度第4回）において、「2026年度のプログラムの周知（案）について」が審議され、6つの取組を実施することが承認された。承認結果に基づき、2026年3月から4月にかけて、2026年度の履修者数増加に向けた取組を実施した。 2024年度から2025年度にかけては、履修者数が99名減少しており、一方で修得者数は増加していることを加味すれば、新入生に対する本プログラムの周知・広報活動に課題があると考えられるため、この点になお一層力を入れて取り組んでいく必要がある。	B
学外からの視点				
6	プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	プログラム修了者がどのような進路を選び、プログラムで身につけたことを活用できているか ＜指標＞ プログラム修了者の進路・就職先と、進路・就職先でのプログラム修了者の評価	前年度同様、2025年度卒業生のうち本プログラム修了者がどのような進路を選んでいるかについて調査を実施した。対象学生1,372名（全卒業生に占める割合53.0％）のうち、就職者数の多い上位5業種は順に「サービス／その他」「建設」「サービス／情報」「製造」「卸売」であった。前年度に比して、修了者の全卒業生に占める割合が増加（12.0ポイント増）した。これに伴い、本プログラム修了者の就職先については、前年度同様、全卒業生の就職先と大きく差異はなかった。 なお、進路・就職先でのプログラム修了者の評価については、本年度は当該調査は未実施であるものの、卒業生進路・就職先への学修成果調査に新たに設問を設け、今後把握していくことを継続して検討している。	B
7	学術・自治体・産業界からの視点を含めたプログラム内容・手法等への意見	プログラムの内容が学術・自治体・産業界に求められる学修成果を学生に身につけさせられる内容となっているか ＜指標＞ 外部評価委員による客観的な評価、学外者からのヒアリング結果等	2025年12月から2026年3月にかけて、3名の外部評価委員による外部評価を書面評価にて実施した。評価項目及び評価の観点は自己点検・評価と同一のものを用いた。 外部評価の結果、リテラシープログラムについては、学生の講義内容の理解度及び学修成果実感が高いことを高評価されたが、履修者数が目標とする数値に届いていないことについて、学生に対して本プログラムの特色や意義を訴える取組に課題が残るとの指摘をいただいた。また、後輩等の学生への推奨度を測る指標として用いている設問について、直接的に推奨度を測る設問を設定することが望ましいとの意見をいただいた。	A